

生ける水

発行者 日本福音教会連合
 岡山市北区丸の内
 1丁目11番15号
 理事長 賀野 攻
 編 倉 集 太
 田 正 信

目次

P.1	私たちの神は焼き尽くす火です…	横田 義 弥
P.1	時の声	
P.2	第39回夏季聖会の報告…	稲田 敏朗
P.2~3	いのちの半…	三浦 清重
P.3	不従順から従順へ…	小見戸 井子
P.3	信仰の継続…	石有 頌園
P.3~4	夏季聖会に参加して…	石有 富下
P.4	きよめの喜び…	森 清
P.4	報告・案内 etc…	

わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。ヨハネ7:38

私たちの神は焼き尽くす火です

練馬グレースチャペル
 牧師 横田 義 弥



第三九回夏季聖会は、「キリストを喜ぶ」というテーマで行われ、練馬グレースチャペルの横田義弥牧師が講師として四回のメッセージをされました。

を残す方である。私たちの世の中は、政治も、人の考え方も、人間関係も、自然界も、クリスチャンの関係ですら揺れ動くものである。最初の人であるアダムとエバが罪を犯した時から、人は神に出会う時、揺れ動く存在となった。旧約時代、人は聖い神の御前に恐れて近づくことのできない存在であった（ヘブル12:18-21）。しかし、新約の時代、ただ一度だけ捧げられた主イエスの血によって聖なる者とされ、神に近づくことができ

る者とされた（ヘブル10:19-22）。神はきよめられた私たちに、燃え尽きにくい金銀宝石が残され、一方で揺れ動かされるものである依然私たちの内にある木・草・藁が焼き尽くされるためである（1コリント3:11）。私たちのきよめの歩みは、自分に足りないと思える愛、聖さ、寛容な心、自制心……を追い求めるのではなく、信じた時に握えられた十字架と復活の恵みに立ち

揺れ動く木・草・藁が焼かれ取り除かれていくのです。そしてキリストの似姿に変えられていくことを切に求めます。人の言葉に腹が立つ、逆に落ち込む、人間関係で揺れ動く醜いものが取り除かれて、私たちの内に働かれる聖霊によって、私たちを通じてイエス・キリストが完全に顕されていく者とされたい。

今世の人々が動かされないものを求めて教会の門を叩く時代が来ている。ある英国の伝道的な教会の壁には、「スリに気を付けて下さい」という張り紙があり、それほどに世の人を教会に迎えており、暗闇の中に教会が置かれていた。そういう世の状況で、私たちクリスチャンが揺り動かされていくのは彼らを迎えることとはできない。彼らが求めているのは動かされる人間的な愛ではなく、決して揺り動かされないイエス・キリストの十字架と復活の愛である。世界で最も腐敗した国として挙げられる国の1位2位は、イスラム教徒、キリスト教徒の国である。人口のほとんどは信

者ですが愛の欠如に飢えて

渴いている。主イエスは父なる神の愛を広めるために来られた。私たちは父なる神の前にもっと出て行き揺り動かされて、揺り動かされないイエス・キリストの十字架と復活の愛を求めて行かなければなりません。

講師の証。身近な人との関係で、心から相手を信頼した時に本来なら相手に対する愛が出てくるはずなのに、逆に相手を心理的に圧迫する虐待的な性質が自分の中から出てくるのに苦しんだ。祈り悔い改め、カウンセリングによって原因を究明し、苦い根を断ち切ることもしたが、それで癒されなかった。追い詰められて、本当に主の前に出て、ヤボクの渡しのヤコブのように格闘した。主は焼き尽くす火となる神としてご自身を顕され、それまで考えられるすべての振り所を捧げる祈りをしてきたが、最後に逃げるという振り所を捧げた時に、その罪深い行動が癒されていた。それから癒され続け主に在る新しい関係が育っている。

あなたの揺り動かされ、焼き尽くさなければならぬものは何でしょうか、神の御前に持って出ましようという招きに、それぞれのところを恵みの座とし、隣の人と祈り合う、幸いな主のお取り扱ひの時でした。（文責 加藤信治）

人の死は、①呼吸が止まる②心臓が止まる③瞳孔が開いて反応がない——（死の三兆候）の根拠を医師が確認して医師は死亡診断書を書く。

「脳死は人の死」、それが臓器移植を前提にする、しないかわからず、脳死は人の死とする事は、現実否定の暴論である。

百パーセント脳死で、数日間後、数日後、はたまた、小児の長期脳死も含めて、脳が全く機能してなくても、その人は、死者ではなく生きて

るのである。

臓器移植に限り、脳死は人の死とは、臓器移植する場合は生きてる者を殺して臓器を取り出して良い、殺人とはならない、との法的御墨付きを与えようとするものである。本人が生前に、意思表示をしていても、家族は、最後の「看取り、臨終」なく、手術室で臓器摘出のために殺されるのと最大限の治療、手術が及ばず死ぬのでは大違い。

脳死ゆえに、生かされる人のために臓器提供は、自分の命を与える事に匹敵する位、大きな愛ではあるが……。

我らは、命を与え、司られる神とその摂理の御手に霊と魂（心）と体を委ねて生きる。

時の声

人の死は、①呼吸が止まる②心臓が止まる③瞳孔が開いて反応がない——（死の三兆候）の根拠を医師が確認して医師は死亡診断書を書く。

「脳死は人の死」、それが臓器移植を前提にする、しないかわからず、脳死は人の死とする事は、現実否定の暴論である。

百パーセント脳死で、数日間後、数日後、はたまた、小児の長期脳死も含めて、脳が全く機能してなくても、その人は、死者ではなく生きてるのである。

臓器移植に限り、脳死は人の死とは、臓器移植する場合は生きてる者を殺して臓器を取り出して良い、殺人とはならない、との法的御墨付きを与えようとするものである。本人が生前に、意思表示をしていても、家族は、最後の「看取り、臨終」なく、手術室で臓器摘出のために殺されるのと最大限の治療、手術が及ばず死ぬのでは大違い。

脳死ゆえに、生かされる人のために臓器提供は、自分の命を与える事に匹敵する位、大きな愛ではあるが……。

我らは、命を与え、司られる神とその摂理の御手に霊と魂（心）と体を委ねて生きる。

我らは、命を与え、司られる神とその摂理の御手に霊と魂（心）と体を委ねて生きる。

我らは、命を与え、司られる神とその摂理の御手に霊と魂（心）と体を委ねて生きる。

第三十九回夏季聖会の報告

江尾キリスト教会

牧師 稲田敏朗

日本福音教会連合主催の第三十九回夏季聖会は八月四日(火)・五日(水)・六日(木)、岡山県総社市、国民宿舎サンロード吉備路で行われました。

聖会の特別講師には基督聖協団練馬教会、小笠原孝先生が予定されていましたが、聖会直前の四日前に肝臓の検査が異常な数値を示した為に(病名は「肝膿瘍」)急遽、同教会の主任牧師、横田義弥先生が代理を務めてくださいました。

横田先生は若さと情熱に溢れた素晴らしいメッセージを取り次いでくださりとても感謝でした。

八月四日(火) 午後の第一回の聖会は、富士見望キリスト教会の鶴沼君子先生の司会で、岡山勝栄基督教会の太田正信先生の御用でした。ピリピンへの手紙四章四節～九節の御言葉が開かれ「主にあっていつも喜びなさい」という題で、「主」自身を喜ぶこと、主を宣べ伝えることの出来る喜び、祈りと讃美の生活について語ってくださいました。

同日夜の第二聖会は、鴻南福音教会の阿部俊昭先生の司会で、横田義弥先生の第一回目の御用でした。ヨシユア記十二章一節～二十四節から「神様の救いの恵み」によって、クリスチャンは、「約束の成就を見ること、御業を見ること、喜びを得ること、恵みの中にあるその特権」を語ってくださいました。横田先生は、代理ではなく、初めから神様に立てられた器のように、大胆にまた力強く語って下さいました。

八月五日(水)の早天祈祷会は、聖泉キリスト教会の三浦愛先生の司会で、多摩キリスト教会の鄭順葉先生の御用でした。ルカによる福音書十章二十五節～三十七節の御言葉から「クリスチャン指導者の霊性」という題で、「見て」「行う」という信仰の実践に重点を置き、ご自身のお証を交えながら、強盗に遭った気の毒な人を見て、慈善を行った「よきサマリヤ人」のメッセージを語ってくださいました。

同日午前の第三聖会は、湘南教会の加藤信治先生の司会で、横田義弥先生の第二回目の御用でした。ヘブル人への手紙十二章十八節～二十九節から「神様の潔めの恵み」という題で語ってくださいました。神様は私たちの心の中の木や草や藁のような不純なもの焼き尽くして潔くして下さいます。神様は焼き尽くさない火なのです。「きよくならなければ、だれも主を見ることはできない」(十二章十四節)と語ってくださいました。

同日午後の第四聖会は、徳山キリスト教会の渡辺隆先生の司会で、連合理事長 倉賀野攻先生の御用でした。イザヤ書六十二章一節～五節から「あなたの神はあなたを喜ばれる」という題で、神様に喜ばれるエルサレムとは、私たちが喜ぶようにあなたの神はあなたを喜ばれる。(五節)と語ってくださいました。主題聖句「キリストを喜ぶ」私たちへの神様の呼応です。

同日夜の第五聖会は、宣教会で、茶屋町復活キリスト教会の戸叶誠先生の司会で、横田義弥先生の第三回目の御用でした。使徒行伝十一章十七節～三十節から「いのちの躍動する教会」という題で、神様から遣わされた者の喜び、派遣された者の喜びを語ってくださいました。異邦人伝道の歩みは、巨大なゾウ(ローマ帝国)に向けて一歩、一歩、前進する歩みでした。戸叶誠先生から献身のお勧めがありました。将来献身を志す人が起こされ、また集う一同も献身を新たにしました。

八月六日(木)の早天祈祷会は、江尾キリスト教会の稲田敏朗先生で、ネヘミヤ記八章九節～十二節の御言葉から、「主を喜ぶこと」について語られました。私たちクリスチャンにとって、主を喜ぶことは、素晴らしい特権であり、その喜びこそ力の源泉であると語られました。

同日午前の第六聖会は、最後の聖会となりました。米子キリスト教会の青木京子先生の司会で、横田先生の御用でした。マタイによる福音書二十八章一節～十節から「空虚な墓よりガラヤへ」という題で、復活のイエス様が、弟子たちに告げられた、行く先は、ガラヤであり、今の時代のガラヤとは、私たちの日常生活の場に他ならないと、私たちは地域の人々に仕える者でなければならぬと語ってくださいました。「NGC」(練馬グレース・チャーチ)においては、「10・40 Vision」(テン・フォ

いのちの雫

買い取られた者

聖泉キリスト教会
牧師 三浦 清重



「信仰が試みられる」
当時、杖に頼って行動していた者が、信仰という杖だけに依り頼んで歩み始めました。

不従順から従順へ

多摩キリスト教会

信徒 小見戸 るみ子

見よ、兄弟が座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。詩編133・1

敬愛する先生方を始め、信仰の先輩、兄弟方の輝きや楽しい笑顔が臉に焼き付けられています。

羽田空港から岡山空港へは僅か一時間余り。離陸して、空高く雲の上。機内の小窓からは、あまりに白で軟らかな雲を覗きながら興奮、そして感動を覚えました。更にプラスして、岡山マンゴへと心は走ります。吉備路へ向かう車窓からもまるで新緑の如く色鮮やかな景色に心が奪われました。自然の恵みをつかの間経験出来、心が和みました。

第一、第二の聖会より——イエス様にあつては喜びしかない。キリストの心を妨げる事の原因、御利益信仰、恵みだけを求める自己目的化信仰そして、神の義ではなく、自分の義に立っている為、十字架の義が無い事。逆に、ヨブの晩年を祝福された神様からの御墨付きの良い信仰とは神様から与えられた人生をやれば良い。自分自身を明け渡し委ねて従う信仰。

主はモーセに言われた。「この民は、いつまで私を侮るのか。彼らの間で行った全ての印を無視し、いつまで私を信じないのか。」民14・11

信仰の継続

赤間キリスト教会

信徒 石井 頌子

今年2月脳梗塞で入院して体調に不安があつたが守られて、第三十九回夏季聖会に信仰の友城野邦子姉と共に参加できたことを感謝します。

毎年山口福音教会からたつた一人で参加くださる兼重元兄。車いすで参加の三浦先生。広島平和教会の中村ご夫妻。多くの病にも打ち勝つて力に満ちた司会にたつた青木京子先生。与野からの川崎和子先生。片倉キリスト教会の尾頭姉。

みなな会えば嬉しく……残念なことは美浜集会所の田仲芳子姉の姿がなかったことです。横田義弥師はその名の示すとおり、モーセの後継者として「わたしは、あなたとともにいる」と神から信頼されたヨシユアの面影があり、実践

目の前の現実に信仰を失っていった人達の中で、ヨシユアは「神が約束された事は神の恵みにより必ず成就する事」を疑わず信じて従順した。結果、神の恵みの支配下の中で神が主の軍の将として三十一人もの王を打ち取った。ヨシユア5・十三〜十五から自分の主権の明け渡しとひ

に裏打ちされたメッセージが心に響きました。ピンチヒッターではなく神のご計画そのものであつたと信じます。またコーラスの指導にあたつてくださった、茶屋町教会の原田佳代子姉の楽しかったこと。前任者の指導の中で私たちと共に賛美をしていくのださつたのに見事なまでの指導力を見せてくださり、ピンチヒッターではなく神のご計画のうちだとしました。

今回とくに子供たちの元気な姿が嬉しいことの一つでした。ペビーだとおもっていたのに成長して目が輝いて走り回っていて、感謝でした。特に阿部実、光君の二人は再前席でのCD制作、奏楽奉仕。ここにホーリネスの群れの力

れ伏しての礼拝があつた故に。主の御前にどうしても進み得無かつた一足がありました。ペテロの様に「逃げ出し」の心と葛藤する日々、傲慢無礼に価する自分の限界。自分の中にある物で立とうとしていた自分の義。再び、主に立ち帰れる時が与えられました。神様の憐れみに感謝致します。

の継承ありと感激しました。かつて私も幼い日、柏木の聖会であたりかまわず大声あげて走り回って過ごした日々……ウエスレー、カウマン夫妻、中田重治、笹尾鉄三郎、

今年も夏季聖会に美浜集会所から大川姉と一緒に参加できました事は本当に感謝でした。今回の聖会のテーマは「キリストを喜ぶ」でした。御言葉を通して深い恵みに預かり、日常の生活の中でどれ程主の哀れみと恵みの中に生かされていることか気付かされ、主を喜ぶことの少ないことを痛感しました。また内なるものを聖めていただき救いの喜びに満たされて歩んで行くことが出来ますようにと

夏季聖会に参加して

美浜集会所

信徒 有 富 園 子

東洋宣教会聖書学院で学んだ諸先輩の中に混ざって昼食のカレーライスを食べたこと。リバイバル聖歌の歌詞とメロデーが体に染みついていきます。先生方のメッセージは覚えていませぬけれど、主の庭の清廉な空気と熱い風が記憶の底にあります。共に過ごしたあの元氣な子供たちにも聖会の炎の種火が継承されると信じます。とりわけ大宮聖嘉くんの存在が参加者の信仰をより深いものに導いてくれたとおもいます。元氣で来年もお会いしたいと願っています。

心から祈りました。聖歌隊の練習では原田姉妹のユニークな指導を受け和やかな雰囲気の中で、諸教会の先生方をはじめ信徒の方々と一緒に楽しむ事が出来、聖会では皆さんと主を心から大きい声で賛美し晴れやかな気持ちで満たされました。新聖歌254番「心にあるこの安きを」は私の好きな聖歌の一つに加わりました。この聖会に毎年参加されている方の中に山口福音教会の

『大山聖会へ出席』

五三年(昭和二八年)大山聖会に出席させて頂き、小さいテントで聖会中の連鎖祈禱をしていました時、誰かに呼び掛けられているような形で、第一コリント十六章十九〜二十節を開きました。「あなた方は知らないのか。自分の体は神から受けて、自分の内に宿っている聖霊の宮であつて、あなた方はもはや、自分自身のものではないのである。あなた方は、代価を支払って買取られたのだ。それだから、自分の体をもって、神の栄光をあらわしなさい。」と。熱のような光のような、しかし何か圧倒する何かを体験しました。この御言葉が開かれて、私は信仰の危機を越える事が出来ました。主イエスと私との繋がりが明確にされたので

す。

兼重兄弟がいっぱいいます。2年前に初めて夏季聖会に出席し20数年ぶりにお会い出来たことは驚きであり、嬉しく感謝でした。私は山口の出身で、独身時代、既に天に召された松田先生の下で洗礼を受け教会生活を送っていました。結婚の際には兄弟からバ

ラの花の油絵を頂きました。今も我が家のリビングに掲げています。現在の私は夫の理解によって信仰生活を守られ、夫は私によって賛美歌を親しむようになっていきます。これから先の人生を二人一緒に同じ方向に向けて歩いて行くことが出来たらと願っています。

この聖会で普段離ればなれにある兄弟姉妹と新しい交わりのお機会が得られた事も嬉しいことの一つです。淡々と流れて行く日々の中であって自分自身の信仰を振り返り、主の下で安らぎを覚えた夏季聖会でした。

きよめの喜び

岡山中央キリスト教会

信徒 森下 清子

今年には全聖会に出席が許されました。

今までは部分参加で、いつも物足りなさを感じておりましたので、感謝でいっぱいです。その上、神様のご計画の内であってパワフルな横田先生を講師にお立てくださり、毎回ぐいぐいとメッセージに引き込まれ、あつというまの三日間でした。

「救いの喜び」「きよめの喜び」「奉仕の喜び」「ビジョンの喜び」と全聖会のメッセージを聞く事ができたため、段階を追って、神様のみこころが強く迫って来てくださるようでした。特に「きよめの喜び」では、わたしたちの神様は実に焼き尽くす火である。ゆえに、揺り動かされる物(草や木や藁で出来ている物)

を取り除き、揺り動かされない物(イエス様)を残して下さい。とお話くださいました。私の中には、揺り動かされるものがいかに多いことか、ということを示され、きよめられた歩みを求めておられるイエス様の十字架のみまえにひざまづき、「わたしの中にある揺り動かされる物を聖霊の火で焼き尽くしてください。イエス様だけがわたしの中に残り、イエス様が輝いて下さい」ところからお祈りしました。

「わたしはキリストととも十字架につけられた。生きているのははやわたしではない。キリストが私の内に生きておられるのである」この聖句は、数年前の夏季聖会で倉賀野牧師が私に覚え

るようにと下さったものです。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。全てのことを感謝しなさい」この聖句のとおり毎朝山道を走る出勤の車の中で、「今日も、イエス様が歩んで下さい。感謝しまし」と全開の窓から、爽やかな風を胸一杯吸い込み大きな声で祈っています。

夏季聖会には信仰生活にとつてなくてはならない命の水です。

この聖句は、数年前の夏季聖会で倉賀野牧師が私に覚え



報告・案内

◆聖泉キリスト教会(三浦清重師)では、六月十三日(土)壮年会主催で千葉県・牛込海岸で潮干狩り開催。

七月二十七日(月) 誠一兄(享年八十二歳)は七月十三日(月)愛する主のみ許に召されました。ご遺族の皆様の上に主のお慰めをお祈り致します。

*八月二日(日) 礼拝に、坂本明子先生(タイ宣教師)を迎えられました。

*七月二十日(月) 和気鶴飼谷温泉でサマーバイブルスクールが開催されました。

◆熊毛キリスト教会(石井敬子師、緑師)では、七月十九日(日) 藤村治先生(単立教会牧師)をお迎えして特別礼拝を、八月十六日(日)には、瀬孝宣師(大内福音教会牧師)をお迎えして特別礼拝をされました。

◆茶屋町復活教会(戸叶誠師)の原田尚兄と中土井君帆姉は六月十四日(日) 結婚式を挙げられました。おめでとうございます。

◆浜田キリスト教会(中島恵美師)では、八月二日(日) 佐々木久子姉の洗礼式が行われました。おめでとうございます。

◆大野伝道所(佐々木寛治師)の電話は、080・5615・1766。FAXは、086・239・4990 となりました。

◆岡山中央基督教会(倉賀野攻師)の佐々木宣夫兄(享年七十七歳)は去る六月三十日(火) 愛する主のみ許に召されました。ご遺族の皆様の上に主のお慰めをお祈り致します。

◆関東聖会は、九月二十(日)川崎少年の家で関東地区内牧師のご用で行なわれます。お祈り下さい。

◆日本福音連盟常任理事会が九月二十八日(月) 浅草橋教会(ウエスレアン・ホーリネス教団、黒木安信師)で行われます。連盟常務理事の太田正信師(岡山勝榮基督教会牧師)が出席します。お祈り下さい。

*十月二十六日(月) 大阪ガールズデンパレスで、日本福音連盟理事會が開催されます。倉賀野攻師と太田正信師が出席します。お祈り下さい。

編集後記

今号は夏季聖会報告号です。夏季聖会の最終日に、執筆を依頼しましたが、四日後の締切りに、各氏気持ち良く受けて執筆下さり感謝しています。読者の皆様には文面から夏季聖会の恵み、祝福を味わって下さい。

「歌いつつ歩まん」は、執筆の女性教師が一巡しましたので、今号から男性教師による「いのちの雫」です。歌いつつ歩まん、は生年月日順を原則に執筆戴きましたが、いのちの雫は、連合教師就任順に執筆を依頼する予定です。ご協力とお祈り下さい。生ける水は年六回の発行ですが、隔月では無く、教会歴と夏季聖会関係などです。次号は十二月一日(火) 発行のクリスマス号となります。